

# 秋田県の畜産振興と当社の役割

土田 正広

(株式会社秋田県食肉流通公社 代表取締役社長)



## <当社の歩み>

当社は、本県の畜産振興や食肉流通の合理化、食肉取引の近代化を図るため、昭和53年6月に、県内11カ所の小規模と畜場を再編・集約する形で設立されております。県内全域を対象としたと畜場であり、畜産農家の経営安定と県民の皆さんへの円滑な食肉供給という広域的かつ公共的な事業を担う法人であることから、県を筆頭株主に秋田県経済連（現全農秋田県本部）や畜産振興事業団（現農畜産振興機構）を大株主として、関係団体や市町村などの合計23団体から出資をいただき整備され、昭和55年から本格操業しております。

その後、BSE、O-157問題や、「秋田牛」の輸出などの社会情勢の変化、高度化・多様化する実需者ニーズに対応して数度の大規模な施設改修が行われ、品質管理、衛生環境の向上が図られております。さらには、全農秋田県本部から食肉販売部門の移管を受けたほか、部分肉処理や内臓処理の外部化を行うなど、販売部門の強化と業務の合理化を図り、現在の産地食肉センターとしての機能が確立しております。

特に、平成22年度には部分肉処理部門、平成29年度にはと畜部門、令和元年度には加工部門で衛生管理のためのHACCPシステムを導入し、3つのHACCPを品質管理・衛生管理の基本とし、安心・安全で高品質の県産食肉や加工品の生産・販売に努めています。

現在、4部7課1室体制で、肉用牛については県内生産のほぼ全量、肉豚については県内生産の半数以上、その他馬や綿羊をと畜処理し県内外に食肉として供給しております。



(会社全景)

## <当社に求められる機能と役割>

当社は、設立や出資の経緯等から、単に家畜を処理し販売するという機能のほかに、様々な機能や役割を果たすことが求められており、会社としての収益の追求のみならず、幅広い視点で業務推進を図っております。

### ○当社が有する機能

#### 1 と畜場としての機能

言うまでもなく、当社の最も基本的な機能は、県内で生産された家畜を消費者の皆様に肉としてお届けすると畜処理業務です。生産者の皆様が大事に育てた家畜を最高の技術と高いレベルの衛生管理により、安心・安全で美味しい肉に処理加工しております。

#### 2 卸売市場としての機能

当社でと畜処理される豚や牛については、当社が生産者から一部を除きほぼ全量買い取り、当社の製品として県内外に販売しております。このことにより、生産者の皆様は安心して生産に励むことができ、購買者の皆様は、定時・定量、一定の品質の牛・豚肉を確保できる卸売市場としての機能を果たしております。

#### 3 加工品製造による県産食肉の高付加価値化

加工部門においては、県産にこだわった食肉原料による各種加工品を製造販売しており、県産食肉等の付加価値の創出とPRを行っております。また、県内の様々な事業者等のプライベートブランド加工品の受託生産も行うなど、地域の加工工場としても機能しています。

## <当社に期待される役割>

#### 1 県内の畜産振興、さらには、食肉業界発展の牽引役としての役割

生産者や畜産団体の取りまとめ役として販売流通の面から畜産振興を牽引するとともに、県内の食肉事業者と連携した県産食肉販売体制を確立する役割。

#### 2 県産畜産物のセールスマンとしての役割

これまで培ってきた大手食肉卸や小売店等との結びつきを活かした県産食肉の売り込みとPRを推進する役割。

#### 3 産地と消費地（消費者）を結ぶ架け橋としての役割

生産サイドと消費・流通サイドの双方と結びついた県産食肉の流通販売拠点として、生産者の思いと消費のニーズをマッチさせる窓口としての役割。

#### 4 県の畜産振興等を具現化する推進役としての役割

県が進める畜産の産地化を流通販売面からアプローチ、支えていく役割。

### <秋田牛の取り組み>

平成26年にデビューを果たした秋田牛ブランドの取り組みについては、当社に求められる機能や役割を遺憾なく発揮し、今日のブランド確立に大きな役割を果たしております。

当社においては秋田牛ブランドのデビューと併せ、秋田牛を牛肉販売の中心に位置づけ、様々な取り組みを行ってきました。秋田牛を広く消費者に知っていただくため、秋田牛のレトルトカレーや秋田牛ローストビーフ等の加工品をデビューさせたほか、秋田牛の牛串を竿燈まつりをはじめとする県内の様々なイベントで提供し秋田牛の認知度向上に努めてきております。

特に平成27年からはタイ、29年からは台湾への輸出を開始し、これまで100トンを超える秋田牛が海を渡り、現地で大変好評を得ています。今年は台湾において、知事によるトップセールスを行っていただいたほか、当社が中心となって若手生産者による現地関係者との意見交換会の開催や現地バイヤーの招聘を予定しており、台湾への直行便の継続と併せ今後も安定した取引が期待されております。

正に県や生産者、当社の連携協力と関係機関・団体の協力の賜であり、当社が中心となって組織している秋田牛輸出促進コンソーシアムは、これから輸出に取り組もうとする産地の手本となる「フラッグシップ輸出産地」として令和6年7月に農林水産大臣の認定を受けております。



### <今後の課題>

現在、当社の正社員の平均年齢は38.7歳と比較的若い世代が中心であります。今後、人手不足により安定した人材の確保が難しくなることも予想されることから、引き続き、待遇改善や働きやすい職場作りを含めて人材確保対策を強化していかなければならぬと考えております。

また、当社も設立から47年が経過し施設の老朽化が進んでいることから、秋田牛を中心とした県産食肉の輸出や高度化・多様化する実需者ニーズに対応した、新工場の整備についても検討を始める時期にきております。

## &lt;終わりに&gt;

生産者の思いを消費者に、消費者の思いを生産者に、安心・安全そして美味しさを繋ぐ架け橋として、品質向上や魅力ある商品作りはもちろんのこと、県産食肉のブランド化や産地作り等に県や生産者、関係団体の協力を得ながら積極的に取り組んで参ります。

## 会 社 概 要

|            |   |
|------------|---|
| 1 会 社 名    | 株式会社秋田県食肉流通公社   |
| 2 代 表 者    | 代表取締役社長 土田 正広   |
| 3 所 在 地    | 〒019-2631 秋田市河辺神内字堂坂2番地1  |
| 4 電 話 番 号  | 018-882-2161  |
| 5 F A X    | 018-882-2164  |
| 6 U R L    | <a href="https://akita-shokuniku.jp/">https://akita-shokuniku.jp/</a> |
| 7 設 立      | 昭和53（1978）年6月   |
| 8 資 本 金    | 13億1,970万円  |
| 9 売 上 高    | 110億7,156万円（令和5年度）  |
| 10 従 業 員 数 | 66名（令和6年3月末現在 臨時、パート含まず）  |
| 11 事 業 内 容 | 肉畜の集荷、と畜、解体<br>枝肉及び副生物の買い取り、並びに受託処理加工<br>食肉及び副生物の加工販売。他これらに関連する事業     |
| 12 経 営 理 念 | 生産者の思いと消費者のニーズを「安全・安心」で繋ぐ<br>架け橋でありたい                                 |